

平成29年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市陽光苑デイサービスセンター
所在地	下関市大字永田郷字寺門158番地1
指定管理者	団体名称 社会福祉法人下関市社会福祉事業団
	代表者 理事長 堀川 徹二
	団体所在地 下関市唐戸町4番1号カラトピア5F
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	福祉部長寿支援課
	TEL : 083-231-1168
	E-mail : fkchojus@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

目標値の達成度

指標：施設利用者数 (単位：人)

	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	合計
目標値	3,000	3,100	-	-	-	-
実績値	2,702	-	-	-	-	-
差	298	-	-	-	-	-

平成29年度は、利用者の中で入院者が増加したことや併設施設の利用者が退所したことにより、実績値が目標値に達しませんでした。平成30年度以降は、併設施設からの利用を促進し、利用者アンケート結果の実現などによる業務改善を積極的に推進し、一層の利用者の獲得に努めることを求めます。

モニタリングの総合コメント

下関市陽光苑デイサービスセンターの施設設置目的は、利用者の自立生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上を図るとともに、その家族の身体的・精神的な負担を軽減することです。その管理運営実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、施設の維持管理、業務の実施、事業の実施についても適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容についても、条例・規則を遵守し、仕様書等に定める業務を適正に実施しています。

収支結果は、指定管理者において様々な経営努力が行われた結果、適正な範囲でした。

今後の業務改善に向けた考え方

平成30年度以降も、本施設の設置目的を推進するため、業務のさらなる向上・充実を図り、安心して施設利用ができるよう管理運営に努めるよう求めます。また、継続的な広報活動により利用者の増加を図っていくことを期待します。

ソフト面では、屋内外を問わず様々なレクリエーションを実施し、利用者へのサービスの質の向上に努めていました。今後も利用者の心身機能の維持向上に努め、利用者の要望にできる限り応えるよう柔軟な対応を求めます。

ハード面では、利用者から大きなクレームも無いことから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を保つよう努めることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設運営や利用者への対応については、公平・平等な施設利用が確保されるよう努力していました。施設の効用については、利用者への必要な支援が確保され、設置目的は達成されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

様々なレクリエーションや行事を実施し、利用者の心身機能の維持向上を図るとともに、利用者同士の交流にも努めていました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

運営については、職員配置基準を遵守し適切に行っていました。施設の維持管理についても計画通り実施していました。また、利用者から出た意見・要望等についても、職員で情報を共有し、今後の改善に役立てていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金等の収入、施設管理費等の支出については、適正に処理され、領収書や経理関係調書も整備保管されていました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

防災等の各種対応マニュアルを作成し、防災訓練も実施されていました。施設賠償責任保険の加入もしていました。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯や、冷暖房温度の省エネ設定等の徹底について実施していました。また、コピー用紙は再生紙を利用し環境への配慮の取組みを行っていました。

事業収支

経済性

事業収支については、指定管理者の努力により適正な範囲でした。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、特に大きな課題や問題はないため、経営状態は健全と判断しました。

平成30年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市陽光苑デイサービスセンター
所在地	下関市大字永田郷字寺門158番地1
指定管理者	団体名称 社会福祉法人下関市社会福祉事業団
	代表者 理事長 山田 恭之
	団体所在地 下関市唐戸町4番1号カラトピア5F
モニタリングの 実施方針・方法 等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	福祉部長寿支援課
	TEL : 083-231-1168
	E-mail : fkchojus@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

目標値の達成度

指標：施設利用者数

（単位：人）

	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	合計
目標値	3,000	3,100	3,100	-	-	-
実績値	2,702	3,126	-	-	-	-
差	298	26	-	-	-	-

平成30年度は、冬季において利用者の入院増加は見られたものの、併設施設からの新規利用を促進したことで、利用実績増となりました。次年度以降も、併設施設からの利用を促進し、利用者アンケート結果の実現などによる業務改善を積極的に推進し、一層の利用者の獲得に努めることを求めます。

モニタリングの総合コメント

下関市陽光苑デイサービスセンターの施設設置目的は、利用者の自立生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上を図るとともに、その家族の身体的・精神的な負担を軽減することです。その管理運営実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、施設の維持管理、業務の実施、事業の実施についても適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容についても、条例・規則を遵守し、仕様書等に定める業務を適正に実施しています。

収支結果は、指定管理者において様々な経営努力が行われた結果、適正な範囲でした。

今後の業務改善に向けた考え方

令和元年度以降も、本施設の設置目的を推進するため、業務のさらなる向上・充実を図り、安心して施設利用ができるよう管理運営に努めるよう求めます。また、継続的な広報活動により利用者の増加を図っていくことを期待します。

ソフト面では、屋内外を問わず様々なレクリエーションを実施し、利用者へのサービスの質の向上に努めていました。今後も利用者の心身機能の維持向上に努め、利用者の要望にできる限り応えるよう柔軟な対応を求めます。

ハード面では、利用者から大きなクレームも無いことから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を保つよう努めることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設運営や利用者への対応については、公平・平等な施設利用が確保されるよう努力していました。施設の効用については、利用者への必要な支援が確保され、設置目的は達成されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取り組み方)

様々なレクリエーションや行事を実施し、利用者の心身機能の維持向上を図るとともに、利用者同士の交流にも努めていました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

運営については、職員配置基準を遵守し適切に行っていました。施設の維持管理についても計画通り実施していました。また、利用者から出た意見・要望等についても、職員で情報を共有し、今後の改善に役立てていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金等の収入、施設管理費等の支出については、適正に処理され、領収書や経理関係調書も整備保管されていました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

防災等の各種対応マニュアルを作成し、防災訓練も実施していました。また、平成30年度は防災危機管理課から講師派遣を受けて防災研修を実施することで入所者・職員ともに防災意識の啓発に取り組んでいました。施設賠償責任保険の加入も行っていました。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯や、冷暖房温度の省エネ設定等の徹底について実施していました。また、コピー用紙は再生紙を利用し環境への配慮の取り組みを行っていました。

事業収支

経済性

事業収支については、指定管理者の努力により適正な範囲でした。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、特に大きな課題や問題はないため、経営状態は健全と判断しました。

令和元年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市陽光苑デイサービスセンター
所在地	下関市大字永田郷字寺門 1 5 8 番地 1
指定管理者	団体名称 社会福祉法人下関市社会福祉事業団
	代表者 理事長 山田 恭之
	団体所在地 下関市唐戸町 4 番 1 号カラトピア 5 F
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次第の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	福祉部長寿支援課
	TEL : 0 8 3 - 2 3 1 - 1 1 6 8
	E - m a i l : fkchojus@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

目標値の達成度

指標：施設利用者数

(単位：人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
目標値	3,000	3,100	3,100	3,060	-	-
実績値	2,702	3,126	3,037	-	-	-
差	298	26	63	-	-	-

令和元年度は、冬季に体調不良等を理由とした利用者の減少が見られ、年間を通しての利用者数は一日当たりで11.2人となり昨年度実績(11.5人)と比較して微減しました。目標値についても僅かに下回り達成には至りませんでした。引き続き併設施設からの新規利用促進と利用者の要介護度の重度化への柔軟な対応を継続し、一層の利用者獲得に努めることを求めます。

モニタリングの総合コメント

下関市陽光苑デイサービスセンターの設置目的は、利用者の自立生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上を図るとともに、その家族の身体的・精神的な負担を軽減することです。その管理運営実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、施設の維持管理、業務の実施、事業の実施についても適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容についても、条例・規則を遵守し、仕様書等に定める業務を適正に実施しています。

収支結果は、指定管理者において様々な経営努力が行われた結果、適正な範囲でした。

今後の業務改善に向けた考え方

令和2年度以降も、本施設の設置目的を推進するため、業務のさらなる向上・充実を図り、安心して施設利用ができるよう管理運営に努めるよう求めます。また、継続的な広報活動により利用者の増加を図っていくことを期待します。

ソフト面では、屋内外を問わず様々なレクリエーションを実施し、かつ季節感や活動選択肢に配慮するほか、サービスの質の向上に努めていました。今後も利用者の心身機能の維持向上に努め、利用者の要望にできる限り応えるよう柔軟な対応を求めます。

ハード面では、利用者から大きなクレームも無いことから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を保つよう努めることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設運営や利用者への対応については、公平・平等な施設利用が確保されるよう努力していました。施設の効用については、利用者への必要な支援が確保され、設置目的は達成されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取り組み方)

様々なレクリエーションや行事を実施し、利用者の心身機能の維持向上を図るとともに、利用者同士の交流にも努めていました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

運営については、職員配置基準を遵守し適切に行っていました。施設の維持管理についても計画通り実施していました。また、利用者から出た意見・要望等についても、職員で情報を共有し、今後の改善に役立てていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金等の収入、施設管理費等の支出については、適正に処理され、領収書や経理関係調書も整備保管されていました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

防災等の各種対応マニュアルを作成し、地震・土砂災害・火災想定防災訓練を実施していました。また、施設賠償責任保険にも加入していました。
さらに、感染症対策については、年間を通して感染症研修、予防対策を実施していました。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯や、冷暖房温度の省エネ設定等の徹底について実施していました。また、コピー用紙は再生紙を利用し環境へ配慮していました。

事業収支

経済性

事業収支については、指定管理者の努力により適正な範囲でした。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、特に大きな課題や問題はないため、経営状態は健全と判断しました。

令和2年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市陽光苑デイサービスセンター
所在地	下関市大字永田郷字寺門 1 5 8 番地 1
指定管理者	名称 社会福祉法人下関市社会福祉事業団
	代表者 理事長 後藤 吉秀
	住所 下関市唐戸町 4 番 1 号カラトピア 5 F
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	福祉部長寿支援課
	TEL : 083-231-1168
	E-mail : fkchojus@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標:施設利用者数(単位:人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
目標値	3,000	3,100	3,100	3,060	3,100	15,360
実績値	2,702	3,126	3,037	3,453	-	-
差	△ 298	26	△ 63	393	-	

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症対策として、一時外部利用者の利用を制限しました。

しかしながら、その間も外部利用者への電話でのケアを継続したおかげで、制限後の円滑な利用再開につなげることができ、加えて、例年に比べ冬期の利用者数の落ち込みも少なかったことから、目標値を大きく上回ることができました。

■ モニタリングの総合コメント

下関市陽光苑デイサービスセンターの設置目的は、通所により利用者の自立生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上を図るとともに、その家族の身体的・精神的な負担を軽減することです。令和2年度の管理運営業務については、施設の設置目的を達成するために、施設の維持管理及び業務が適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

また、条例・規則を遵守し、仕様書等に定める業務を適正に実施しています。

利用実績についても、新型コロナウイルス感染症の影響により一時外部利用者の利用を制限したものの、年間平均利用者数は前年度より実績増となっています。

収支結果は、指定管理者において経営努力が行われた結果、適正な範囲でした。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

令和3年度以降も、本施設の設置目的を推進するため、業務のさらなる向上・充実を図り、利用者が安心して利用ができるような管理運営に努めるよう求めます。また、継続的な広報活動により利用者の増加を図っていくことを期待します。

ソフト面では、利用者の安全確保に配慮しつつ季節感を取り入れた様々なレクリエーションを実施し、サービスの質の向上に努めています。今後も利用者の心身機能の維持向上に努め、利用者の要望にできる限り応えるよう柔軟な対応を求めます。

ハード面では利用者からクレームも無く、設備の更新も適時実施されていることから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を保つよう努めることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

利用者の心身の健康の増進を図り、利用者向けに新型コロナウイルス感染症の感染防止や新しい生活様式についての研修を適時開催する等、施設の設置目的に沿って適切に運営していました。また、施設運営や利用者への対応については、公平・平等な施設利用が確保されるよう努めていました。施設の効用については、利用者への必要な支援が確保され、設置目的は達成されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

利用者に対して、適切な介助とともに、安全に在宅生活を送るためのアドバイスや、新型コロナウイルス感染症の流行にあわせた新しい生活様式の提案を行っていました。レクリエーションについても、コロナ禍での自粛により季節感が失われがちであることに配慮し、季節に応じたメニューを取り入れるよう努めていました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

運営については、職員配置基準を遵守し適切に行っていました。施設の維持管理についても、異常が認められた場合には速やかに対応していました。また、利用者アンケートで把握した要望に対しても、職員で情報を共有し改善を図っていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金収入、事業費等の支出については適正に処理され、領収書や経理関係調書も整備保管していました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

防災等の各種対応マニュアルを作成し、地震・土砂災害・火災想定での防災訓練を実施していました。また、施設賠償責任保険にも加入していました。さらに、年間を通して検温、マスクの着用、消毒といった新型コロナウイルス感染症対策にも重点的に取り組んでいました。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯や、冷暖房温度の省エネ設定等を実施していました。また、コピー用紙は再生紙を利用し環境へ配慮していました。

事業収支

経済性

事業収支については、指定管理者の努力により適正な範囲でした。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、特に大きな課題や問題はないため、経営状況は健全と判断しました。

令和3年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市陽光苑デイサービスセンター
所在地	下関市大字永田郷字寺門 1 5 8 番地 1
指定管理者	名 称 社会福祉法人下関市社会福祉事業団
	代表者 理事長 後藤 吉秀
	住 所 下関市唐戸町 4 番 1 号カラトピア 5 F
モニタリングの 実施方針・方法 等	<p>本施設の管理運營業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	福祉部長寿支援課
	TEL : 0 8 3 - 2 3 1 - 1 1 6 8
	E-mail : fkchojus@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標：施設利用者数（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
目標値	3,000	3,100	3,100	3,060	3,100	15,360
実績値	2,702	3,126	3,037	3,453	3,384	15,702
差	△ 298	26	△ 63	393	284	342

令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により一時的に地区利用者の利用制限等を行ったものの、前年同様の登録者数を維持し目標を達成することができました。

指定管理期間全体においては、新型コロナウイルス感染症が拡大した後半の期間にあっても事業所内の感染防止対策及び休止期間中の利用者へのケアを継続したおかげで、大幅な利用者数の減少には至らず目標を達成することができました。

■ モニタリングの総合コメント

下関市陽光苑デイサービスセンターの設置目的は、通所により利用者の自立生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上を図るとともに、その家族の身体的・精神的な負担を軽減することです。令和3年度の管理運營業務については、施設の設置目的を達成するために施設の維持管理及び業務が適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。また、条例・規則を遵守し、仕様書等に定める業務を適正に実施しています。

利用実績についても、新型コロナウイルス感染症の影響により一時地区利用者の利用を制限したものの、施設利用者数は前年度と同程度を維持しています。

収支結果は、指定管理者において経営努力が行われた結果、適正な範囲でした。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

下関市陽光苑デイサービスセンターの指定管理は令和3年度末日をもって終了しました。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

利用者の心身の健康の増進を図り、新たに特殊浴槽を稼働させ介護度の重い利用者に安全・安心な入浴サービスを提供できる体制を整える等、施設の設置目的に沿って適切に運営していました。また、施設運営や利用者への対応については、公平・平等な施設利用が確保されるよう努めていました。施設の効用については、利用者への必要な支援が確保され、設置目的は達成されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

利用者に対して、適切な介助とともに、安全に在宅生活を送るためのアドバイスや、新型コロナウイルス感染症の流行にあわせた新しい生活様式の提案を行っていました。レクリエーションについても、コロナ禍での活動自粛により季節感が失われがちであることに配慮し、季節に応じたメニューを取り入れるとともに、マンネリ化しないよう時事ニュースや地域の話題等を積極的に取り入れていました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

運営については、職員配置基準を遵守し適切に行っていました。施設の維持管理についても、異常が認められた場合には速やかに対応していました。また、利用者アンケートで把握した要望に対しても、職員で情報を共有し改善を図っていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金収入、事業費等の支出については適正に処理され、領収書や経理関係調書も整備保管していました。また、規定及び重要事項説明書に対し行政から指摘を受けた点については、年度内に改善を図っていました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

防災等の各種対応マニュアルを作成し、併設施設と連携しながら地震・土砂災害・火災想定での防災訓練を実施していました。また、施設賠償責任保険にも加入していました。さらに、年間を通して検温、マスクの着用、消毒といった新型コロナウイルス感染症対策にも重点的に取り組んでいました。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯や、冷暖房温度の省エネ設定等を実施していました。また、コピー用紙は再生紙を利用し環境へ配慮していました。

事業収支

経済性

事業収支については、指定管理者の努力により適正な範囲でした。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、特に大きな課題や問題はないため、経営状況は健全と判断しました。